

# 国際バルク戦略港湾政策の取組(報告)

---

国土交通省 港湾局

平成30年3月13日

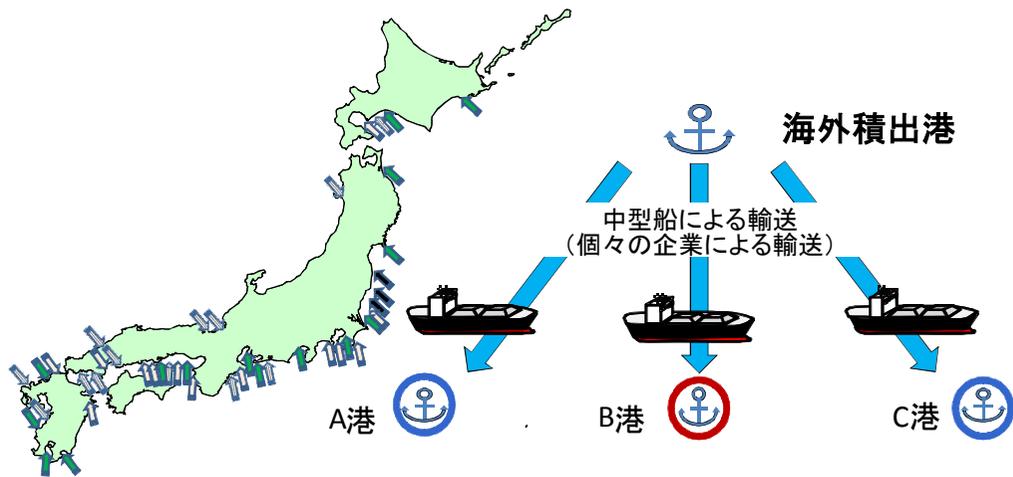
## 課題

- 我が国は、資源・エネルギー等のほぼ100%を輸入に依存。近年、近隣国の輸入量急増により、資源獲得競争が激化。
- ばら積み貨物船の大型化が世界的に進展している中、我が国では大型船に対応できる港湾は限定的。

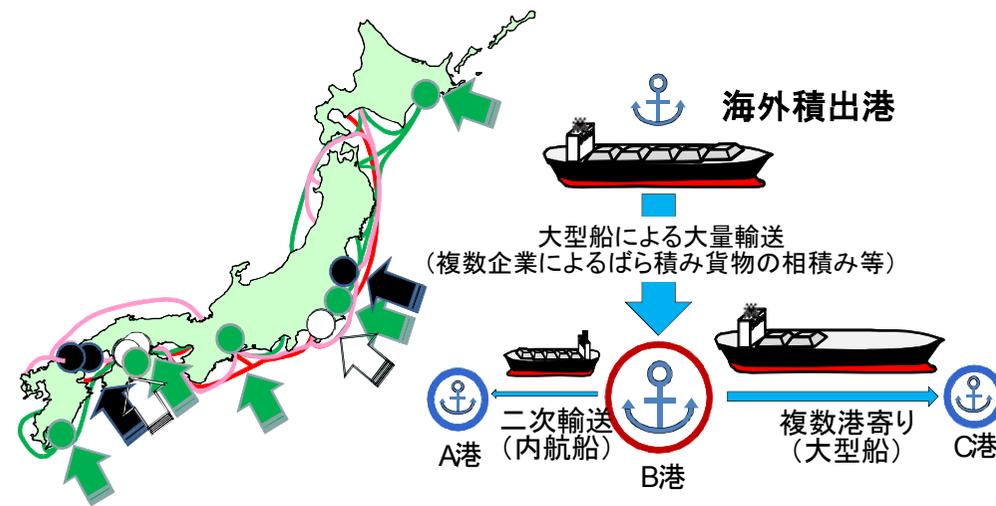
## 対応

### 企業間連携による大型船を活用した効率的な海上輸送網の形成を推進

これまで



これから



#### 国際バルク戦略港湾

- 穀物: 釧路港、鹿島港、名古屋港、水島港、志布志港
- 鉄鉱石: 木更津港、水島港・福山港
- 石炭: 小名浜港、徳山下松港・宇部港

#### 【具体的な取組の例】

- 資源・エネルギー等の輸入拠点となる港湾において大型船が入港できる岸壁等の整備
- 企業間連携による大型船での共同輸送の促進
  - 荷さばき施設等の整備に対する補助、税制特例措置 等

# 国際バルク戦略港湾政策の推進

<p style="text-align: center;"><b>小名浜港(石炭)</b> 小名浜港実施中プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大型船による共同輸送を促進: 海上輸送コスト約4割削減※</li> <li>▶ 公共投資に合わせた民間投資: 最新鋭石炭火力発電所の建設計画が進展</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>⇒民間投資 約3000億円</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>釧路港(穀物)</b> 釧路港実施中プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大型船による共同輸送を促進: 海上輸送コスト約4割削減※</li> <li>▶ 公共投資に合わせた民間投資: サイロ増設や飼料製造工場の新規立地が進展</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>⇒民間投資 約116億円</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>徳山下松港・宇部港(石炭)</b> 徳山下松港実施中プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大型船による共同輸送を促進: 海上輸送コスト約2割削減※</li> <li>▶ 公共投資に合わせた民間投資: 貯炭場において出荷設備の増強が進展</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>⇒民間投資 約56億円</b></p>
<p style="text-align: center;"><b>水島港(穀物)</b> 水島港実施中プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大型船による共同輸送を促進: 海上輸送コスト約2割削減※</li> <li>▶ 公共投資に合わせた民間投資: 新たな穀物関連企業の進出</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>⇒民間投資 約330億円</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>志布志港(穀物)</b> 志布志港実施中プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大型船による共同輸送を促進: 海上輸送コスト約1割削減※</li> <li>▶ 公共投資に合わせた民間投資: 飼料製造工場等への設備投資が進展</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>⇒民間投資 約114億円</b></p>	<h2 style="text-align: center;">政策の目的</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆生産性の向上 大型船が入港できる岸壁等の整備に加えて、企業間連携による共同輸送を実現することで、海上輸送コスト削減を目指し、飛躍的な生産性の向上を図る。</li> <li>◆国際競争力強化 産業インフラの機能強化を図ると共に、公共投資に合わせて民間投資の動きも活性化させ、経済の好循環に繋げる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">※国土交通省港湾局試算</p>

# 国際バルク戦略港湾に係る取組経緯

## 1. 国際バルク戦略港湾に係る取組経緯

平成21年12月15日	第1回 国際バルク戦略港湾検討委員会 開催
平成22年 6月 1日	国際バルク戦略港湾を募集
平成23年 5月26日	第15回 国際バルク戦略港湾検討委員会 開催
平成23年 5月31日	国際バルク戦略港湾の選定結果を公表
平成23年 8月31日	国際バルク戦略港湾育成プログラム作成

## 2. 港湾法等関係法令の改正等

平成25年 6月 5日	改正港湾法 公布
平成25年11月29日	改正港湾法施行令・港湾法施行規則 公布
平成25年12月 1日	改正港湾法・港湾法施行令・港湾法施行規則 施行
平成25年12月19日	小名浜港を特定貨物輸入拠点港湾(石炭)に指定
平成26年12月 4日	福島県(港湾管理者)が小名浜港特定利用推進計画を公表
平成28年 2月24日	釧路港を特定貨物輸入拠点港湾(穀物)に指定
平成29年 9月 4日	釧路市(港湾管理者)が釧路港特定利用推進計画を公表
平成30年 2月23日	徳山下松港を特定貨物輸入拠点港湾(石炭)に指定

## 3. 事業の実施

平成25年度～	小名浜港国際物流ターミナル整備事業(水深18m)着手
平成26年度～	釧路港国際物流ターミナル整備事業(水深14m)着手
平成28年度～	徳山下松港国際物流ターミナル整備事業(水深19m、14m、12m)着手
平成29年度～	水島港国際物流ターミナル整備事業(水深14m、12m)着手
平成29年度～	志布志港ふ頭再編改良事業(水深14m)着手

## 4. 民間事業者による効率的な埠頭運営

平成26年 5月 7日	福島県(港湾管理者)が小名浜埠頭(株)を運営事業者に認定
平成27年12月22日	釧路市(港湾管理者)が釧路西港開発埠頭(株)を運営事業者に認定
平成29年12月25日	山口県(港湾管理者)がやまぐち港湾運営株式会社を港湾運営会社に指定

## 5. 税制特例措置

平成25年 1月29日	特定貨物輸入拠点港湾における荷さばき施設等に係る税制特例措置等を規定した「平成25年度税制改正の大綱」を閣議決定
平成27年 1月14日	同特例措置の延長等を規定した「平成27年度税制改正の大綱」を閣議決定
平成28年12月22日	同特例措置の延長等を規定した「平成29年度税制改正の大綱」を閣議決定

- 民間事業者による一体的な埠頭運営実現のため、平成29年9月に山口県及び関係企業7社により「やまぐち港湾運営株式会社」を設立。平成29年12月25日に山口県が同社を港湾運営会社に指定。
- 石炭の輸入拠点としての機能や効率的な運営体制が整ったことから、平成30年2月23日に国土交通大臣が港湾法に基づき、徳山下松港を特定貨物輸入拠点港湾に指定した。
- 既に指定している東日本の小名浜港に加え、西日本の徳山下松港を指定したことで、国全体として効率的かつ安定的な輸送ネットワークの形成と海上輸送コスト削減による生産性の向上が図られる。
- 今後、やまぐち港湾運営株式会社が核となり、各社石炭購入情報の収集、配船計画、共同配船のコーディネートを行うなど石炭の共同輸送の促進に取り込む。

## 〔港湾運営会社の概要〕

- 商号：やまぐち港湾運営株式会社
- 所在地：山口県周南市築港町9番1号
- 設立日：平成29年9月29日
- 資本金：50,000千円
- 代表者：弘中 勝久(山口県副知事)
- 職員数：役員10名、従業員2名
- 出資者：やまぐち港湾運営株式会社株主名簿

名称	保有株式割合
出光興産(株)	7%
宇部興産(株)	7%
JXTGエネルギー(株)	7%
周南バルクターミナル(株)	7%
中国電力(株)	7%
東ソー(株)	7%
(株)トクヤマ	7%
山口県	51%

### 新南陽地区



[公共埠頭]-12m×240m(1B:既設)  
-12m×80m(延伸)  
[埠頭用地] 4ha(既設)

○東ソー(株)

### 徳山地区



[公共埠頭]-14m×280m(1B:既設)  
-14m×110m(延伸)  
[埠頭用地] 9ha(既設)

○(株)トクヤマ  
○周南バルクターミナル(株)  
○出光興産(株)

### 下松地区



[公共埠頭]-19m×390m(1B:新設)  
[埠頭用地] 6ha(新設)

○中国電力(株)  
○JXTGエネルギー(株)  
○宇部興産(株)

港湾運営会社による一体的・効率的な運営

## 特定貨物輸入拠点港湾の指定の要件

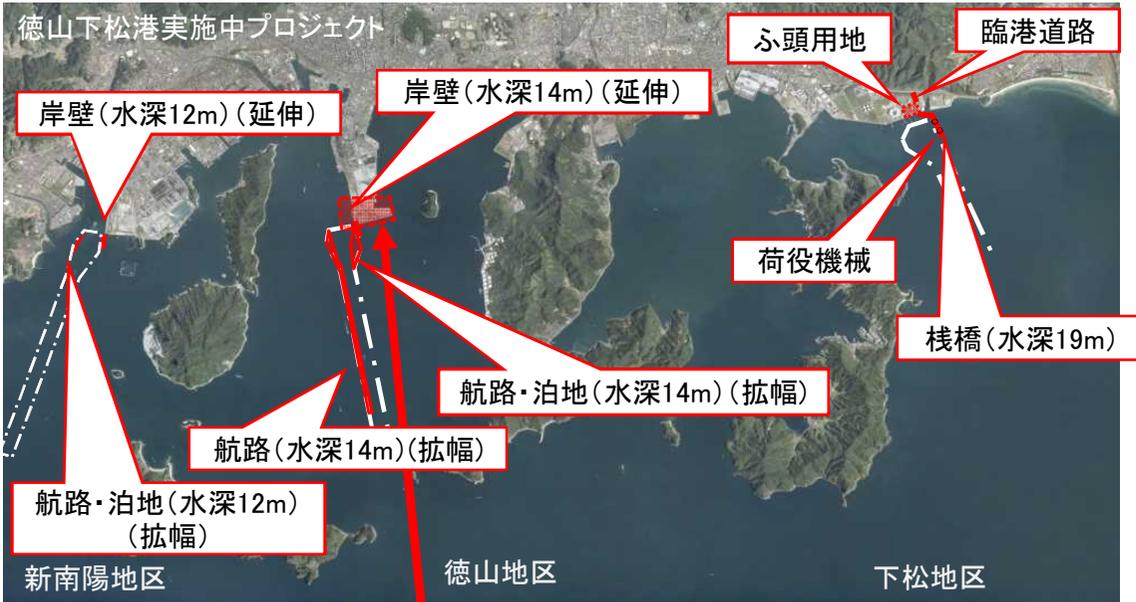
- ・輸入ばら積み貨物の取扱量が相当程度見込まれること
- ・港湾計画に水深14mを超える係留施設が定められていること
- ・埠頭が同一の民間事業者により一体的に運営されること
- ・港湾管理者や企業間の連携が確保されていること 等

## 特定貨物輸入拠点港湾の指定のメリット

- ① 荷さばき施設等の取得に係る固定資産税等の特例 ※  
※今後作成する特定利用推進計画に定める荷さばき施設等に対して課する固定資産税又は都市計画税の軽減(課税標準となるべき価格の2/3)
- ② 港湾区域内の工事等の許可等の特例

# 徳山下松港・宇部港の取組み状況（石炭）

- 平成28年度より港湾整備事業着手（完成予定 平成31年度、総事業費 302億円）。平成28年度には、土質調査、設計を実施。**平成29年6月25日に着工式典を開催。**
- 公共投資に併せ、出荷設備の増強を目指し、民間の貯炭場等の投資が進展。
- 企業間連携による効率的な海外炭物流体制について検討を進める中で、宇部興産と中国電力の認識が一致。積出港、輸送時期及び必要量等の調整を行った結果、インドネシア炭の共同輸送について合意に至り、平成30年1月には、**港湾運営会社設立後として初の共同輸送を実施。**



## 民間事業者による出荷設備の増強

徳山下松港徳山地区



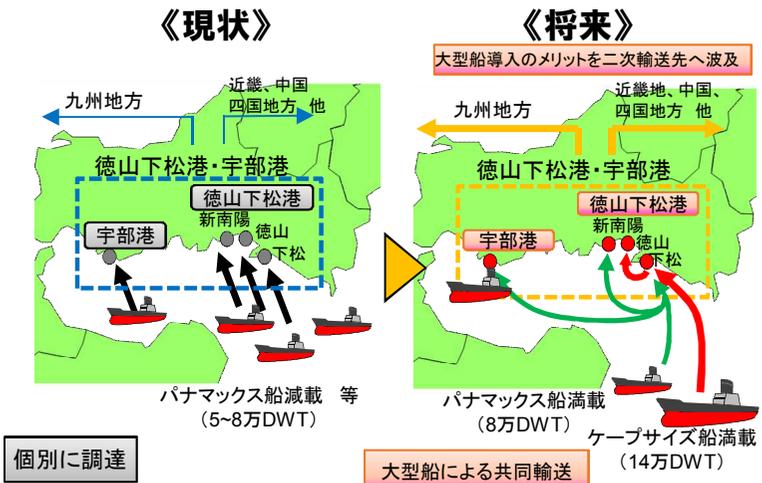
平成29年度より、出荷設備の増強など、約56億円を投資予定

周南バルクターミナルにおいて石炭搬送用スタックリクレーマ等の運搬整備を増強することで、石炭出荷の効率を高める。

**総事業費：約56億円**

## 【連携による効率的な石炭輸送体系のイメージ】

徳山下松港下松地区にケープサイズ船が満載で入港可能となることで、地区間の共同輸送が実施され、効率的な輸送が構築される



## 【徳山下松港・宇部港における企業間連携の海上輸送事例】

到着時期	宇部港、平成30年1月
輸送量	約7万トン (宇部興産約5万トン、中国電力約2万トン)

共同配船

8万トン級パナマックス船

宇部興産 中国電力

インドネシア

中国電力 宇部興産

中国電力が単独で輸送するのに比べ一定のコスト削減効果。

特定貨物輸入拠点港湾(穀物)として指定された釧路港の港湾管理者である釧路市は、特定埠頭運営者や港湾利用者及び連携先である他港関係者とも協議を行った上、**平成29年9月4日付けで、特定利用推進計画※を公表。**

※特定利用推進計画とは、港湾法第50条の6の規定に基づき、港湾管理者が作成することができる輸入ばら積み貨物の海上運送の共同化と効率化のために取り組むソフト・ハードの計画。

## 釧路港特定利用推進計画(穀物)のポイント

### 【連携対象港】

苫小牧港(北海道)、仙台塩釜港石巻港区(宮城県)、新潟港(新潟県)、八戸港(青森県)

### 【利用企業】

三ツ輪運輸(株)、釧路サイロ(株)、道東飼料(株)、釧路飼料(株)、全国酪農飼料(株)、ホクレンくみあい飼料(株)

### 【特定貨物取扱埠頭機能高度化事業の実施体制】

項目	実施機関	時期
<b>(1)施設整備等</b>		
・岸壁(-14m)、航路・泊地(-14m)、泊地(-14m)	国	～平成29年度(予定)
・荷役機械等	釧路西港開発埠頭(株)	～平成30年度(予定)
<b>(2)民間事業者による効率的な埠頭運営</b>		
・特定埠頭運営事業の開始	釧路西港開発埠頭(株)	平成30年度(予定)～
<b>(3)海上運送の共同化に係る取組</b>		
・海上運送の共同化の促進	穀物飼料取扱利用者(荷主、港湾事業者、倉庫事業者)	平成29年9月～
・特定利用推進計画の作成等	釧路港特定貨物輸入拠点港湾利用推進協議会	平成28年11月～

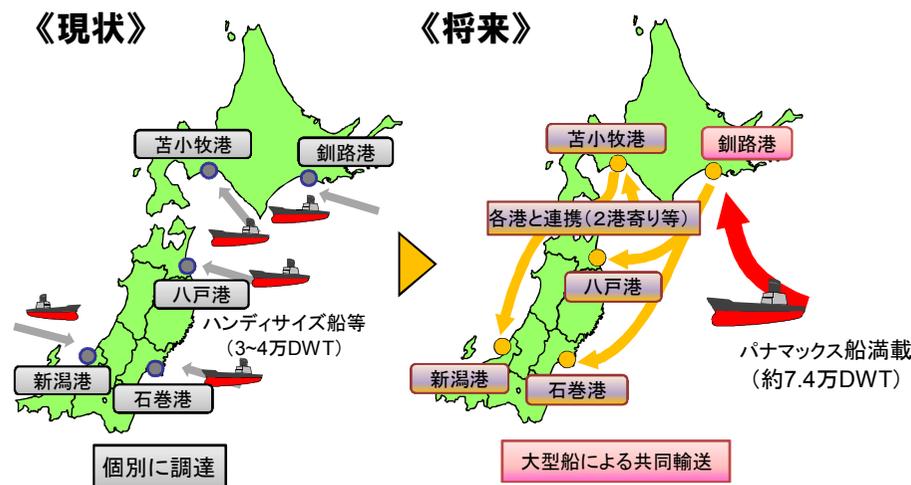
### 【目標:特定埠頭運営の開始から5年以内】

大型船を活用した海上運送の共同化などにより西港区第2ふ頭地区において取り扱われる穀物について、釧路港で年間約130万トン以上を取扱い、トウモロコシ物流コストの1割程度の削減を目指す。

また、釧路港と連携対象港との2港寄り3港寄りを通じた大幅な海上輸送コストの削減を目指す。

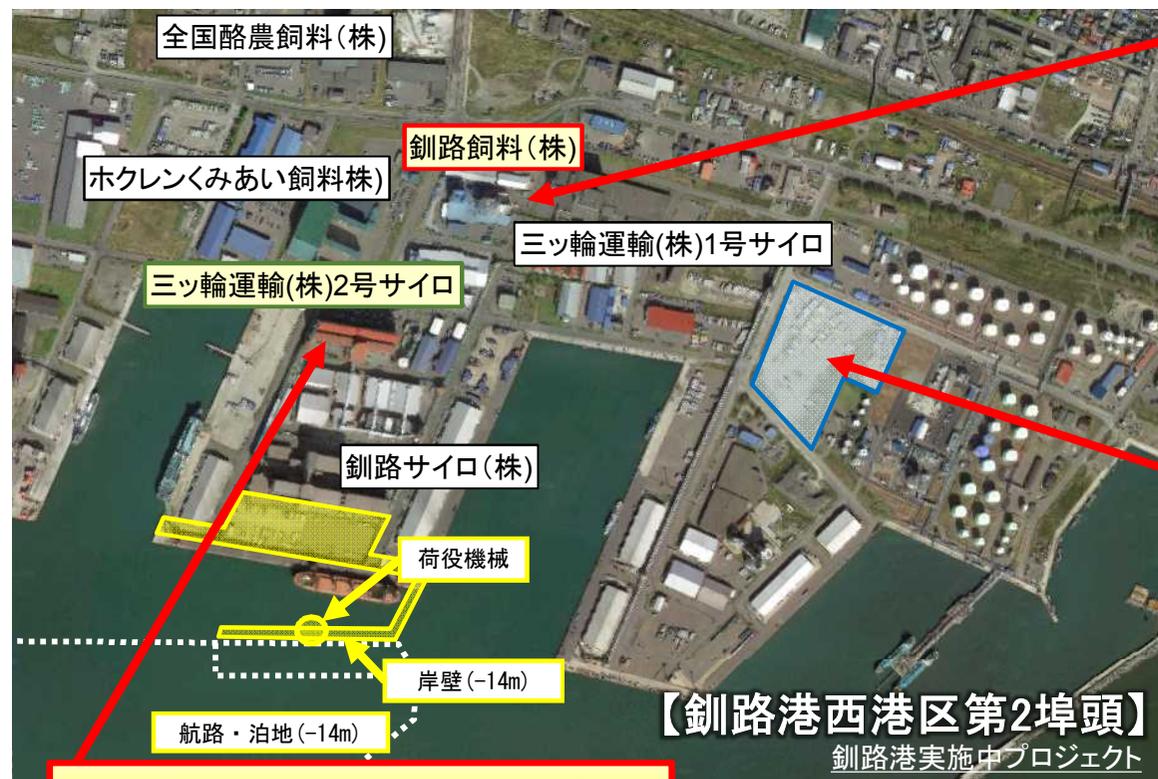
### 【連携による効率的な穀物輸送体系のイメージ】

パナマックス船が満載で入港可能となることで、各港との連携による共同輸送(2港寄り等)が実施される



# 釧路港の取組み状況(穀物)

- 平成26年度より港湾整備事業着手（完成予定 平成30年度、総事業費 182億円）。平成29年度中に岸壁(-14m)の完成、平成30年秋頃に荷役機械を設置し、供用予定。
- 国際バルク戦略港湾としての供用を見据え、民間事業者による貯蔵能力の拡大や飼料製造工場の新規立地などが続々と動き始めている。



## 民間事業者によるサイロの増設

事業者：釧路飼料(株)  
整備施設：大型船による穀物輸入に対応したサイロの増設  
サイロ28基

(貯蔵量約600トン)

平成28年4月より供用開始

**総事業費：約3億円**



釧路飼料(株)サイロ

## 新たな飼料工場の進出

事業者：中部飼料(株)  
月2万トンの配合飼料製造能力  
着工予定：平成30年5月  
稼働予定：平成31年6月

**総事業費：約63億円**



## 民間事業者によるサイロの増設

事業者：三ッ輪運輸(株)

整備施設(1)：

大型船による穀物輸入に対応したサイロの増設  
サイロ14基 (貯蔵量約1万トン)

平成28年4月より供用開始

**総事業費：約20億円**

整備施設(2)：

国際バルク戦略港湾の供用開始、西港区に進出する飼料工場への原料供給に対応したサイロの増設  
サイロ17基 (貯蔵量約1.2万トン)

平成31年5月末に完成予定

**総事業費：約30億円**

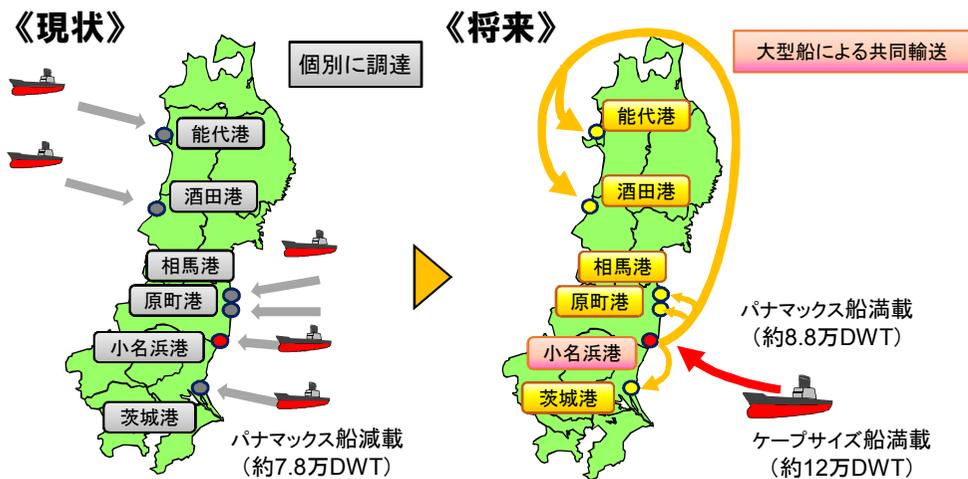


三ッ輪運輸(株)2号サイロ

# 参 考 资 料

# 小名浜港の取組み状況（石炭）

- 平成25年度より港湾整備事業着手（完成予定 平成32年度、総事業費 887億円）。東港地区の人工島と3号ふ頭を結ぶ臨港道路（橋梁）が平成29年3月に完成。平成30年度中に東港地区（1バース）完成予定。
- 現在、広野IGCCパワー合同会社等が小名浜港背後に最新鋭の火力発電所（IGCC）を建設中。約3,000億円の設備投資や、建設工事では約2,000人の雇用が創出される見込みである。
- 上記IGCC火力発電の新たな需要に対応するため、**整備中の岸壁（水深18m）の延長を有効活用する整備計画**として整備を進めている。

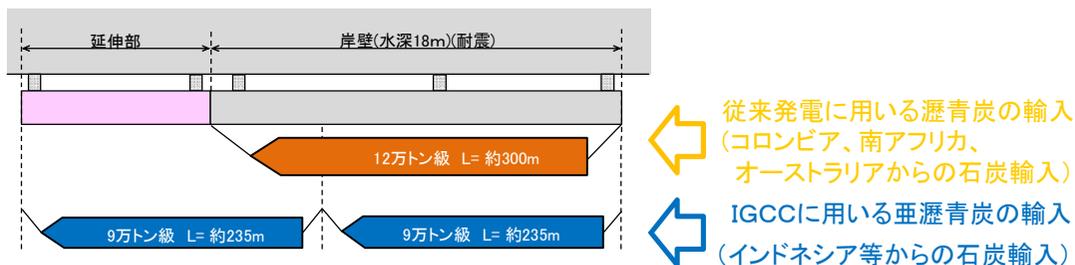


ケープサイズ級船舶等が満載で入港可能となることで、各港との連携による共同輸送（2港寄り等）が実施される

**海上輸送コスト 約4割削減**※ ※国土交通省港湾局試算

## 【新たな貨物需要への対応】

新たな貨物需要に対応するため、整備中の岸壁（水深18m）の延長を有効活用することで、9万トン級の大型バルク船2隻の同時接岸が可能となる。



## 福島における最新鋭石炭火力発電設備建設（石炭ガス化複合発電(IGCC)）

- 立地 東京電力広野火力発電所、常磐共同火力勿来発電所
  - 出力 約50万kW×2基
  - 想定スケジュール 勿来：平成32年9月運転開始目標  
広野：平成33年9月運転開始目標
- ※IGCC；石炭ガス化複合発電（従来の石炭火力より高効率でCO2排出量も少）

↓  
広野IGCCパワー合同会社、  
勿来IGCCパワー合同会社の2社

- 雇用 **最大2千人/日規模**（建設最盛期、両地点合計）
- 設備投資 **約3,000億円**（2基合計）
- 経済波及効果 **約1,600億円**（2基合計）  
（環境アセス着手～建設～数十年の運転期間の総額）



※東京電力(株)資料より国土交通省港湾局作成

完成予想図(広野)

# 水島港の取組み状況(穀物)

- 平成29年度より港湾整備事業着手（完成予定 平成33年度、総事業費 259億円）。平成30年1月27日に着工式典を開催。
- 国際バルク戦略港湾に選定されたことを受けて、玉島地区に穀物関連企業による新規サイロ等の設備投資が行われるなど、民間投資が進展。先行して新たな食品コンビナートが稼働した。
- 飼料、穀物等の輸送及び保管を行うため、株式会社上組が倉庫を立地（着工：平成30.4予定、操業：平成31.4予定）
- 岡山県や港湾利用企業などで構成する「水島港穀物取扱運営協議会」において、埠頭の一体運営に向けた調整が進められている。

## 玉島ハーバーアイランド食品コンビナートの稼働開始

総投資額 約330億円

- ・全農サイロ : 平成29年3月完工、3月27日より穀物受入開始
- ・JA西日本くみあい飼料 : 平成29年5月完工、6月より本稼働開始
- ・Jオイルミルズ : 平成29年6月完工・稼働開始

H29年7月31日撮影



### 現状

各地区へそれぞれパナマックス船の減載(7万DWT減載)等で穀物を輸入。

### 将来

パナマックス船が満載で水島地区岸壁①に、二次輸送で水島地区岸壁②、玉島地区に入港可能となる。地区間の共同輸送により、輸送コストが約2割削減※される見込み。

パナマックス船満載(7万DWT) 必要岸壁(水深14m、延長320m)

# 志布志港の取組み状況(穀物)

- 平成29年度より港湾整備事業着手(完成予定 平成33年度、総事業費 106億円)。平成30年1月13日に着工式典を開催。
- 国際バルク戦略港湾選定以降、港湾背後で民間企業による飼料製造工場等への設備投資が進展。
- 民間事業者による一体的な埠頭運営実現のため、鹿児島県が中心となり特定埠頭の運営事業者の認定に向けて調整中。

パナマックス船満載(7万DWT)  
必要岸壁(水深14m、延長320m)

— 既設穀物取扱岸壁  
— 整備中

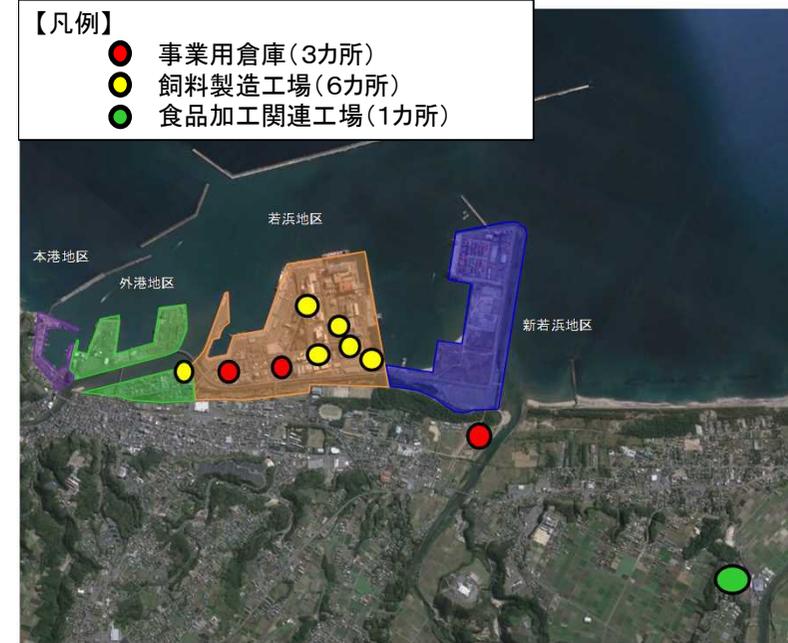


国際バルク戦略港湾選定以降、志布志港に穀物関連事業所の新設、増設、設備投資が行われている

総投資額 約114億円

【凡例】

- 事業用倉庫(3カ所)
- 飼料製造工場(6カ所)
- 食品加工関連工場(1カ所)



## 現状

若浜地区の3つの岸壁及び鹿児島港へそれぞれパナマックス船の減載(7万DWT減載)等で穀物を輸入。

## 将来

パナマックス船が満載で新若浜地区岸壁に、2次輸送で若浜地区の岸壁①、②及び鹿児島港に入港可能となる。各港各地区間の共同輸送により、輸送コストが約1割削減※される見込み。

※国土交通省港湾局試算